

平成 26 年 11 月発行

第35号

発行 有田川町議会

発行責任者 議長 湊 正剛

住所 郵便番号 643-0021

和歌山県有田郡有田川町

大字下津野2018番地4

電話 0737-52-2111

FAX 0737-52-2198

<http://www.town.aridagawa.lg.jp/profile/gikaikoho.html>

有田川町議会広報 かわら版

平成 26 年度一般会計補正予算など	2 ~ 6
一般質問	7 ~ 14
石垣中学校 3 年生議会傍聴	15 ~ 16
委員会レポート	17
カレー甲子園で決勝進出（有田中央高校清水分校）	18



あらぎ島、キャンドルライトイルミネーション

台風11号災害復旧事業費などに **5億6,179万円**
 二川ダム小水力発電所建設工事費に **2億4,516万円**
一般会計補正予算
総額で1,697万円の減額

平成26年第3回定例会は、9月3日から18日までの日程で開催されました。

本定例会に提案された平成26年度一般会計・各特別会計補正予算、道路線の認定・変更、条例の制定、請負契約、財産の取得など、提案された議案を審議し、すべて原

案の通り可決されました。

なお、平成25年度一般会計・各特別会計決算も上程されましたが、水道事業会計以外の決算認定については休会中に決算審査特別委員会で審議されます。

平成26年度補正予算の主な歳出

◎一般会計補正予算

(単位：万円、千円以下切り捨て)

項 目	金 額	説 明
議 会 費	△ 434	議員定数削減による減額
総 務 費	△ 1,109	人件費の減額による
民 生 費	4,538	新設保育所（吉備地域）建設に伴う測量設計監理委託料など
衛 生 費	2,606	子どもの水ぼうそう、高齢者の肺炎球菌ワクチン予防接種補助など
農林水産業費	△ 10,544	共撰改修の国庫補助金見込めず、総じて減額になる
商 工 費	△ 573	わがまち元気プロジェクト補助金などあるが、人件費の減額で総じて減額となる
土 木 費	△ 644	道路新設改良事業や木造住宅耐震改修事業補助金などあるが、工事請負費、土地購入などの減額があり、総じて減額となる
消 防 費	1,729	旧早月小、西ヶ峯地区コミュニティセンターの2か所のヘリポート設置費など
教 育 費	2,136	医師報償費など
諸 支 出 金	600	水力発電施設周辺地域交付金積立金
歳 出 合 計	△ 1,697	

補正予算質疑

〈教育費関連〉

質疑

3保育所を統合

した保育所建設の設計予算は、行政改革の町立保育所の統廃合ときび会館施設の維持管理の削減からきている。

三位一体改革の中で公立保育所の運営経費が国の負担金から一般財源化された。また施設整備交付金が公立保育所に適用されなくなった。

長期総合計画の3万人



御霊保育所

のまちづくりをするという大前提から吉備地区という唯一、人口の増えているところで園児の減少を見込んでの保育行政となる。保育所の統合についての考えはどうか。

町長

保育所の耐震化の課題がある。また土地を借りており、借地料が必要のため、3保育所の建て替えよりも統合してひとつにすることが合理的だと判断した。

保護者や地区の方々に説明をしてご理解を得ている。

質疑

新保育所の保育

は森の保育所構想で、野外での保育を中心にさまざまな体験とあるが、全国的にも実践経験が少ない。保育内容は上からの方針なのか。実践するのは現場の保育士だ。十分な論議が必要。今議会で計上しなければならぬ合理的な理由も見当たらない。平成27年度当初で



田殿保育所

もよいのでは。

町長

今度の保育所は、

コンセプトとして森が近くにあり、そこで自然を使った子どもたちの遊び場を提供しながら何時間か森の中で保育をする。

建設にあたって、保育士や保護者の方々と今後もしっかり議論を重ね、平成27年後半に完成できるようにがんばりたい。

質疑

各保育所は、地

域の実情が大きく反映し

た歴史的な事情がある。統廃合するしないにかかわらず、今後、本当によい保育ができるかどうか、関係者の声をどれだけ反映できるか。

いま、有田川町こども子育て支援事業計画が見直し中だが、どのように位置づけられるのか。

また、報告書を議員に出していただきたい。

教育部長

保育内容は、

森と木と人で育てる心と体が目標である。そのためには保育の質の向上がかぎになる。

保育士の研修会で、今後の考え方や保育方針、統合の説明をし、意見も聞き、概ね良好な形でスタートしている。

建築まで一年半だが、保育内容をきっちりするための保育士の研修期間とご理解いただきたい。

子ども子育て支援事業の報告書は平成26年度末に出させていただく。

質疑

統合することで

御霊、田殿、藤並の地元・近隣の人の同意は万全にとれているのか。

子どもを預かるのだから周辺の安全面を考えて進められたい。

教育部長

地元同意は、

昨年度から地元区長と協議、また保護者との協議を重ねてきた。耐震の問題や通所の安全の問題などがあり、できるだけ早い時期に、新しいところで良い環境にしていきたい。

保護者は、総じて安心して保育できる環境のた



きび中央保育所

めに、建て替えてほしいというご意見をいただいている。

設計は公共の建物であり、お子さんが集まる場所、ご近所に対する配慮も忘れてはならない。

機能、安全性、環境面を十分認識のうえ検討を重ねたい。

質疑 きび会館は、社会教育の面でダンスなどのサークルが利用しているが、施設を解体することにより、今後、活動場所をどのように考えるのか。

町長 建設にあたって、地元の人とも協議を重ねながらやっていきたい。

質疑 3保育所合わせて340名の定員となっている。藤並保育所の定員より大幅に上回るが、どのように考えているか。

また、年齢別に何人かを考えているか。

教育部長 定員は実数で田殿保育所が70名、御



きび会館（統合保育所建設予定地）

かれていた方も統合保育所の方へ来ていただける。

質疑 保育士の人数は今とどう変わるのか。

教育部長 保育士数も現在42名だが、30名から40名程度になる。保育クラスに合わせて考えていく。

町の方針は、1人で1つのクラスをみるのではなく、サポートがつき、最低でも1クラス2名以上を守っていきたい。

質疑 建設概算事業費はどのようになっているのか。

教育部長 総事業費は、外構から森の整備、きび会館の解体なども入れて約5億円まで。よりよいものをつくっていきたい。

質疑 給食調理室は計画の中にあるのか。

教育部長 自園給食が原則なので自園給食を貫いていきたい。

質疑 今年は203名

だが、去年は253名、その前は227名、平成23年は234名、有田川町全体では園児数の減少が予想されるが、吉備地域は増えている。極端に定員数の削減は避けるべきではないか。地域との話はぜひともしていただきたい。

教育部長 定員は人口動態の予測や子どもたちの動き、保護者の就業形態の状況や保育時間帯もあり、適性規模の保育所づくりをしている。

〈地籍調査費関連〉

質疑 地籍調査は何名の職員でやっているのか。補正予算の給料を減額しているのはなぜか。

産業振興部長 職員は11名。人数は変わらないが、職員により給料が高い人もあれば低い人もあり、給料が高

い職員の異動により減額している。

質疑 地籍調査課へ問い合わせをしたら、当課へ来てほしいと言われた。個人情報のこともあるが、電話では聞けないのか。

産業振興部長 電話の対応では、図面を見て場所の確認ができない。来ていただいていた場所を確認させていたきたい。も



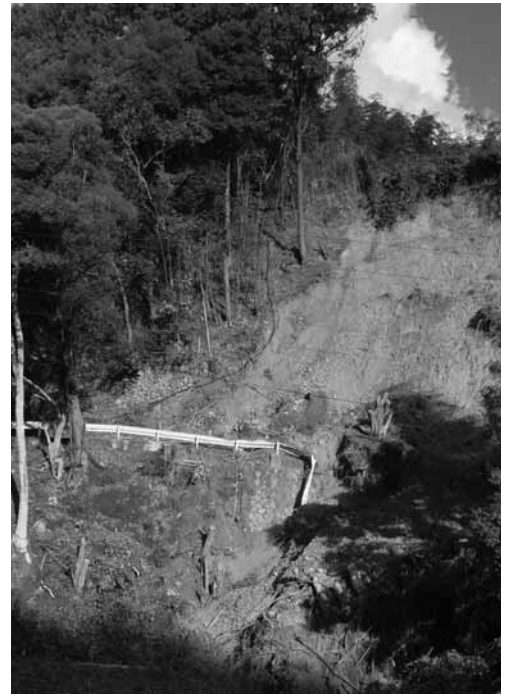
地籍調査員による地籍の測量中

し間違ったところをお答えすればトラブルも考えられ、大変ご足労だが、来ていただきたい。

質疑 町職員は町民全体に行政サービスが必要になってくる。公僕としての認識は。

町長 地籍の問題も万が一、トラブルがあつてはならないので現地確認をしてもらうのが一番良い。

説明の中で町民が不快感をもたれないよう、今後、指導をしていきたい。
副町長 きめ細かいサービスに徹していきたい。



町道糸川青木線、土砂崩壊で通行止（糸川地内）

◎平成26年度国民健康保健事業特別会計

◎平成26年度後期高齢者医療特別会計

◎平成26年度介護保険事業特別会計

◎平成26年度簡易水道事業特別会計

専決処分の承認

◎平成26年度一般会計補正予算

5億6179万円
・台風11号により災害が発生し、緊急に災害復旧事業を実施するため

（町道22件、河川40件、農地60件、農業用施設9件、林道1件）

報告

◎有田川町土地開発公社の清算結了報告

・清算に伴う残余財産は有田川町に帰属する。
土地872, 893㎡と現金7743万円は基金として積み立てる。

◎平成25年度有田川町財政健全化判断比率等の報告

実質赤字比率

（実質収支は2億3921万円の黒字であり実質赤字比率は発生しません）

連結実質赤字比率

（普通会計に公営企業会計等特別会計を含めた連結での実質収支は、全ての特別会計において黒字となり連結実質赤字比率は発生しません）

実質公債費比率

3か年平均で12.3%
（25%で早期健全化基準、35%で財政再生基準）

将来負担比率

65.9%（350%で早期健全化基準）

決算認定

◎平成25年度水道事業会計剰余金の処分および決算認定

条例の制定

◎金屋町ふるさと基金条例を廃止する条例の制定

質疑

旧町から引き継いだ暫定施行の基金条例は、平成25年末の基金残高はいくらで、どこへ入れたのか。

町長

25年度末までに全部使い切つてゼロである。

◎有田川町過疎地域自立促進のための固定資産税の特別措置に関する

条例の制定

◎有田川町半島振興対策実施地域における固定資産税の特別措置に関する条例の制定（固定資産税が3年間減免される）

質疑

固定資産税の減免について、どのような宣伝をすれば、反応がcaえてくるかが大事であるが、事前の予測をどのようにみているか。

総務政策部長

県下の市町村では、18市町村がこの計画をもって各条例を制定している。これを制定すると新しくきた企業が設備投資などをすれば固定資産税の軽減措置が受けられる。

また、すでにある企業も設備投資をすれば軽減措置が受けられる。

今後、宣伝し利用していただける企業が増えることを期待している。



宅地化に伴い町道線の変更

◎町道1007号線
(野田地内)

道路線の変更



新設される町道現場付近

◎町道 北筋出線
きたすじいでせん

道路線の認定



吉備支団3台、金屋支団1台を購入

◎小型消防ポンプ積載車
(4台)の購入
1080万円

財産の取得



小水力発電施設を設置予定

◎有田川町営二川小水力
発電所建設工事
2億4516万円

請負契約

請願・陳情の審査

仮称「徳田橋」架橋
にかかる請願

〈付託先〉
産業建設住民常任
委員会

結果 採択

意見書の提出先
和歌山県知事

手話言語法制定を求
める意見書の提出を
求める請願

〈付託先〉
総務文教福祉常任
委員会

結果 採択

意見書の提出先
内閣総理大臣、衆
議院議長、参議院
議長、総務大臣、
文部科学大臣、厚
生労働大臣



手話言語法制定を求める意見書の結果を傍聴に
来られた関係者のみなさん(9月18日)

ウイルス性肝炎患者
に対する医療費助成
の拡充に関する陳情

〈付託先〉
総務文教福祉常任
委員会

結果 採択

意見書の提出先
内閣総理大臣、厚
生労働大臣、衆議
院議長、参議院議
長

「解釈改憲による集
团的自衛権の行使に
反対する意見書」の
提出を求める請願

〈付託先〉
総務文教福祉常任
委員会

結果 継続審査

決算審査特別委員会 委員構成

◎橋爪 弘典
◎小林 英世
○小畑 進
谷岡 俊明
辻岡 省吾
岡谷 信哉
森谷 信哉
(◎委員長、○副委員長)

*平成25年度一般会計・
各特別会計決算は休会
中に審査され、12月定
例会において議決され
ます。

一般質問

7議員が登壇しました

年4回の定例会一般質問は、議員の日常活動や考え方に基づき、町長もしくは教育委員会に対する質問の要旨をまとめ、開会日から質問通告の締め切り日までに議長へ通告します。一人の議員は、あらかじめ通告している質問について3回まで質問ができます。町長などに行政への基本姿勢や方針、時々的重要課題など、

町行政全般について、自由に質問ができるようになっています。

町民みなさまの傍聴をお待ちしています。なお、「かわら版」の掲載には、紙面が限られています。原稿は一人約900字以内にまとめることになっているため、すべての質問が掲載されるとは限りません。



佐々木建設環境部長



武内総務政策部長



中山町長



楠木教育長



三角教育部長



林産業振興部長

質問議員氏名	質問事項
佐々木 裕 哲	1 防災行政を問う
	2 ふるさと納税の実態はどうか
殿 井 堯	1 台風11号・12号の本町の被害状況はどうか
	2 下水道事業の進捗状況はどうか
	3 教育充実のため社会教育の見直しを
辻 岡 俊 明	1 熊井川の河川改修を求める
	2 こども議会を開催してはどうか
	3 全国学力テストの結果はどうか
谷 畑 進	1 農業の振興策を問う
岡 省 吾	1 災害に強い町づくりを
	2 空き家バンクの現状と今後の取り組みは
増 谷 憲	1 防災対策は急務
	2 台風11号被害からの災害復旧制度を問う
	3 木造住宅耐震改修などの充実を
堀 江 眞 智 子	1 統合保育所建設は関係者の声を聴いて
	2 産科医対策はどうか
	3 災害対策を求める

人災を最小限に防げる防災行政を



佐々木 裕哲

防災行政を問う

町長 自主避難は
防災の基本

質問 いつ起こるとも分からない自然災害、そのための防災対策は不可欠である。中でも避難など、ソフト面はみんながその気になれば人災を最小限に防げる。

わが町の土砂災害危険箇所は何か所か。そのうち警戒区域指定地は何か所か。警戒指定にあたり、地元との問題はないのか。指定地でなくても危険地であることを地元の説明しているのか。

大雨時の増水など、局地豪雨の場合、地域情報の収集はどうか。

8月の台風11号の時に出した避難情報に対し、結果はどうだったのか。

町長 わが町の土砂災害危険箇所は1152か所、内475か所は警戒区域



増水時の有田川

に指定されている。(吉備地区8、金屋地区40、清水地区427)その他467か所は警戒指定に向けて作業している。

指定されると、建築規制などいろいろな条件が出てくるが、今は問題など出ていない。

地区から町への通報体制は区長、消防団、自主防災組織、また住民から直接収集している。

避難情報は降雨量、ダムへの流入・放流などで判断している。

8月9日、台風11号時の岩野河区から下流小島区までの22区へ避難準備情報を出したが避難された方は87名で0.9%だった。自分たちの命は自分たちで守る自主避難が防災の基本だ。いかに防災意識を高めてもらうかが課題である。

ふるさと納税の実績はどうか

町長 503件で739万円の実績

質問 国は地方創生、活性化のために今回、担当大臣も設置し、動き出した。

ふるさと納税は新たに納税するものでなく、今の税金の中から自分のお世話になったふるさとや貢献したいふるさとへ寄付することで住民税や所得税から一定の控除も受けられる制度。また、納税した市町村からお礼としてその地域の特産品がもらえる。これが人気で対応しきれない自治体も

あると聞く。

わが町の実績はどうか。

町長 わが町のお礼の商品はみかん、ジュース、山椒などだ。来年度から制度改革で税金の軽減限度額も2倍になる見込みである。年間を通して發送できるように考えていきたい。

総務政策部長 平成20年度から、5年間の実績は503件739万円である。

ふるさとづくり事業補助金やわがまち元氣プロジェクト事業補助金にしている。

今後、この制度を広報誌などでPRしていく。



ご協力いただいた方に送る有田川町の特産品の一例



台風による農地災害への対応策を

殿 井 堯

後継者不足による農地災害負担金の問題

町 長
個人負担の軽減を
考えていく

質問 台風11号・12号の影響により、わが町にも道路、農地、河川などに多数の被害が発生している。

農地は個人の所有なので、補助金が出たとしても必ず個人が負担しなければならぬ。過疎化や後継者不足などの問題から農地を補修できないという問題が生じている。

町はすべての農地に対し補助はできないが、二次災害などの危険を伴う場所については、次の災害が起こる前に早急に対策をとってもらいたい。

今後、このような問題にどう対応していくのか。

町長 台風による災害は200件近く報告されている。災害の補正予算として約5億6千万円予定

している。

できるだけ国や県など、関係機関に要望し、個人の負担を軽減できるようにしていきたい。



農地の崩壊（吉原地内）

整備工事はもちろんだが、設備の維持やメンテナンスなどにも年間多額の費用がかかっている。今後の加入促進はどうか。

町長 平成26年8月までの新規の下水道接続件数は84件、加入率は48・36%になっている。

加入率はまだ低く、これから推進していく。

質問 現在5か所の農業集落排水施設があり、これを維持するにも予算がかかる。

将来的に農業集落排水施設を公共下水道施設につなげれば、メンテナンスや維持費を削減できるのではないかと。

町の考えはどうか。

町長 今のところ1か所の農業集落排水施設と公共下水道への接続を考えている。

地元の理解のもと、他の農業集落排水施設についても今後、検討していく。

社会教育発展の取り組み
はどうか

町 長
明日を創造する
社会を目指す

質問 有田川町の学校教育は、全国的に比べても充実した設備が整っていると思うが、社会教育に関しての取り組みはやや不十分に感じる。

町は社会教育発展のためどのような取り組みをしているのか。

町長 子どもたちには、自然体験やスポーツ体験を通じて協力し合う力と明日を創造して仲間の絆を深める社会教育の充実を目指している。

教育部長 公民館においては、館長や主事を中心となり、地域に密着した活動を行っている。

各地区において、子どもの教育や地域の活性化などをテーマにした座談会も開催されている。

熊井川流域の安全確保 こども議会開催と全国学力テストの結果は



明 俊 岡 辻

熊井川河川改修の働きかけを

町 長 早期改修の要望を進めるていく

質問 高速道路熊井高架

橋より東側（上流部）の熊井川はちょっとした雨でも氾濫する。熊井川流域の安心安全を確保するために町はどういう強い働きかけを県にしているのか。

町 長 見上橋けんじょうばしから湯浅御坊道路の間にまだ狭いところがあるのでそこを広げてからでないと上流部に手がつけられない。

上流部も早急に、必ず拡幅改修工事をするという内諾をもらっている。

建設環境部長 熊井川河川改修促進協議会が、昭和55年から毎年県へ陳情活動をして熊井川全体の早期改修を要望してきた。

また建設課も早期の事業着手を強く要望してきた。見上橋から湯浅・御

坊道路までの区間は高速関連事業として、平成26年から測量が着手されている。



氾濫時の熊井川

中学生によるこども議会の開催を

町 長 実現できる取り組み

質問 議会や町政に関心をもち、いつかは青雲の志をもって町長や町議会議員となる人材育成のきっかけ作りのために中学生による「こども議会」を開いてみてはどうか。町長および教育長の考えを聞く。

また建設課も早期の事業着手を強く要望してきた。見上橋から湯浅・御

町 長 若者が議会を身近に感じ、政治や行政に興味・関心をもってもらう方法として「こども議会」は大変良いと考えている。

教育委員会や学校と連絡をとってできるだけ早く実現できるように取り組んでいきたい。

教育長 「こども議会」を開催することにより町の概要を理解してもらうと共に政治や行政に関心を深めてもらう体系的な学習の良い機会になると考えている。

小中学生全国学力テストの結果はいかに

町 長 学力の基礎を向上させる

質問 従来、町内児童生徒の成績は全国平均より上で優秀であると聞いてきたが、今年の結果は全国平均と比べてどのようになっているのか。

教育部長 今年の小学校

誤			
	30年	31年	32年
石 垣 中	38	49	43
計	676	685	647

↓
正

	30年	31年	32年
石 垣 中	28	39	33
計	666	675	637

*前号9ページに掲載の表中に誤りがありましたので、訂正いたします。

については残念ながら全国平均を下回った。しかし中学校の正答率は全国ベスト5レベルにあり、特に数学は秋田、福井に次ぐ正答率であった。ただ、小学校も中学校も国語力が弱いという分析結果が出ており、確かな学力のためには「読む力」「書く力」「話す力」をきっちりつけていかなければと考えている。



後継者不足 今後の農業施策を問う

谷 畑 進

農業後継者などへ
施策の充実を

町 長
国や県の補助制度
を活用していく

質問 町内の農業従事者が年々減少している。今後、農業と農業関連による経済の悪化が余儀なくされてくると考えられるが減少傾向の歯止め策はないか。

町内は、傾斜地が多く小規模経営型の農業が中心だ。国の政策とは別の有田川町独自の施策が必要ではないか。それには農業後継者や担い手不足が問題となる。それらに対する施策・事業を問う。

町長 農業振興については非常に厳しいものがある。高齢者、放棄地、後継者不足、鳥獣害問題といった悪循環を解消することが重要な課題である。現在、国や県の補助金制度で取り組んでいる「耕作放棄地再生利用緊急



傾斜地を小さく区切った園地

急対策事業」「農地中間管理事業」「農地銀行制度」「農地活用総合支援事業」「中山間地域等直接支払事業」がある。今後、国の地方創生事業にも注目していきたい。

産業振興部長 耕作放棄地再生利用緊急対策事業では、現在まで182アール、借り受け希望者は149人で年間5件から6件の貸し借りがある。平成25年度の農地集積件数は113件である。農地活用総合支援事業

は、45件で1656アール。

中山間地域直接支払事業は80集落1733ヘクタールである。

青年就農給付金事業は、平成25年度7名が活用。また、結婚相談所による婚活イベントの開催により、若者に出会いの場を提供できるよう活動している。

町 長
町繁栄のため、新規就農者への支援を

地域経済への影響を考え農業を守っていく

質問 今後、どうすれば町繁栄につながるか、農業への思いを問う。また、地域では、定年退職者も重要な担い手としているが、その支援策はあるのか。

町長 有田川町において第一次産業は、地域経済の動向に大きく影響し、農業を守っていくことが重要だ。



退職者グループによる京新清水とうがらしの栽培（久野原地内）

そのために「独自の作物がないか」「第六次産業化の研究」「県が取り組んでいる輸出に対する施策」などが重要だ。

新規就農支援資金事業として、45歳から60歳未満の認定就農者を対象に融資制度がある。

青年就農給付金事業の年齢制限など国や県に要望していく。

課題はいろいろあるが、農業の地域経済に及ぼす影響は大きい。しっかりと農業を守っていかねばならない。

災害に強い町づくりと 空き家バンクの取り組みは



岡 省 吾

生活主要道路の整備を

町 長
今後関係機関に
強く要望していく

質問 今夏、全国各地に季節外れの連続した台風が襲来。

有田川町においても豪雨により道路、河川、農地などに大きな爪跡を残し、復旧事業費が約5億6千万円の被害を受けた。

人的被害が出なかったことがせめてもの救いであつたが、毎年のように異常気象だといわれている昨今、日ごろの備えに徹する心構えと意識の向上を養うことが必要だ。

このたびの被害でも生活主要道路が土砂崩れなどの被害で通行止めや交通規制となった。

特に山間地はほぼ全域で山肌が弱く、崩落危険箇所である、

早期の改修整備が急がれるが、今後の対応を聞く。



大木が覆いかぶさり一時通行止めとなった国道480号（岩野河地内）

町 長 県では国道424号で13か所、国道480号で78か所、県道海南金屋線で4か所の法面点検を行っている。

地域からも強い整備や改修の要望が出されており、今後とも早期に着手していただけるよう関係機関に強く要望していく。

高齢者や身体の不自由な方の避難誘導は

町 長
地域と情報を共有し万全に努めている

質問 住民の生命を守る意味においては早い自主避難が有効である。しかし、高齢者や身体が不自由な方などは俊敏な行動ができない。そのような方々への手立てはどうか。

町 長 「災害時要援護者避難支援プラン」において、災害時支援が必要な方の情報を把握。区長さんや民生委員さん、また自主防災組織の皆さんなどと情報を共有しながら、万全な避難誘導が取れるよう努めている。

空き家バンクの現状と取り組みは

町 長
県の改修補助事業も絡めて推進していく

質問 全国では空き家の数が820万戸を数え、これは総住宅数に占める

割合の13.5%、年々右肩上がりに増えている。有田川町でも増加しているこの空き家に対しての取り組みを問う。

清水行政局管内で取り組んでいる空き家バンク登録の現状は。

町 長 現在の登録件数は借り家1軒。

質問 田舎暮らしを希望されている方の問い合わせの現状と現在までの成果は。

町 長 電話などの問い合わせは延べ189件。現地在を案内したのは延べ89件。実際に定住された方は現在まで7世帯の12名。

質問 吉備・金屋地域でも増え続けていく空き家対策に向けての今後の取り組みは。

町 長 吉備や金屋でも同様の課題だ。今後、地域みなさんにご理解とご協力をいただき、県の住宅改修補助事業も活用して推進していく。



防災対策は急務になっている

増 谷 憲

災害時に対応できる
計画を

町 長
防災計画を見直
す

質問 地域防災計画の被害想定は、前回の計画と変わっていないが、この点はどうか。

町長 県での被害想定を現在策定中であり、当町の被害想定も現時点で見直しはされていない。

県が新しい被害想定を出せば、それをもとに地域防災計画を見直したい。
質問 地域防災計画の中に二川ダムとその周辺の崩壊も視野に入れたの防災対策を求める。

町長 県から「ダム設計基準」により安全だと聞いている。ダム本体及び両翼の護岸の崩壊は現在のところ想定していない。しかし、もう一度県に聞いてみる。

なお、下流域の住民の避難などは、万全にして

いきたい。

質問 ハザードマップは山間地域の地域性を反映させる協議が必要。住民への周知・活用がより必要だかどうか。

町長 山間地域での見直しができるよう検討する。台風襲来などや防災の説明の機会に活用している。



町道へ土砂が流出（西ヶ峯地内）

質問 避難体制は十分か、また避難路は大丈夫か。

町長 できる限りの情報を得ながら避難準備情報、避難勧告、避難指示を出す。

深夜における避難は危険を伴う場合もあり、早めに避難準備情報を出し、

避難所を事前に開けるなどの対策を講じる。

避難路は、最適な経路を各自で選択し、避難していただきたい。

質問 避難所での生活は健康に注意した対応が求められるかどうか

町長 避難所運営マニュアルなどを参考に、健康管理、プライバシーの確保、避難者のストレスを軽減できるようにしたい。

質問 仮設住宅の用地を今からめどをつけておくべきではないか。

町長 事前に候補地を選び、県に報告している。

質問 災害ボランティアの受け入れは社会福祉協議会だが、町も力を注いで体制の充実と恒常的な訓練がいるのではないか。

町長 災害ボランティアの協力は必要不可欠である。ボランティアセンターの開設は社会福祉協議会の協力を得て町が開設し、社会福祉協議会が運

営する。

町職員も訓練に参加できる体制をつくっていく。

質問 災害時のアマチュア無線の活用を考え、資格者の協力を求めているかどうか。

町長 調べて検討する。

木造住宅耐震化補助は平成12年度以前の住宅にも拡充を

町 長
今後の進み具合で検討したい

質問 町建築物耐震化促進計画の目標と到達点はどうか。

町長 平成25年度末で耐震化率は52%、平成27年度末の目標は74%。

質問 建築基準法の改正で平成12年5月以前に建築された木造住宅の耐震化が求められる。国は補助対象にしている。町も対象にすることを求める。

町長 昭和56年以前の建物の耐震化率や県の推移を見ながら検討する。

統合保育所（複合施設）建設は みなさんの声を聞いて



堀 江 眞 智 子

**保育所建設は、地元や
保育士の声を聞いて**

町 長
地域の意見を聞
きながら進める

質問 御霊、田殿、中央の3保育所を一つにまとめて、緑豊かなきび会館の地へ複合施設建設のための設計予算が、今議会に提出されている。

森の保育所というコンセプトで今、植えられている木々を残して建設するとのこと、環境面では良い考えであると思っている。

しかし、きび会館は地元地区の災害時の避難場所にもなっている。複合施設となるのだから、まず設計ありきではなく地元地区と協議をし、地域の要望を聞くことが大切だ。

また、施設で働く保育士の要望も最大限取り入れることが大事だ。

町長 新統合保育所の建

設は、現在のきび会館を撤去した跡地に計画を考えている。

この計画については、きび会館の活性化を促す地元区の要望も聞いた中、複合施設として地域と共存できるように協議を行っている。

今後も、地元区の意見を伺いながら計画を進める。

乳幼児たちの安心と安全が保育所の基本である。



きび会館

その基本にたつて保育環境の保全と、機能的かつ本町保育指針に基づいた保育所を建設することが、保育士が保育しやすい環境となると考えている。

**安心して子どもたちを
産み育てられることは
町の大きな課題**

町 長
強力に働きかける

質問 有田市立病院で赤ちゃんを産むことができなくなつて一年、現在は助産師外来が開設されている。

毎議会ごとに質問をするのは安心して子どもを産み育てられることが町の大きな課題と考えているからだ。

県議会では福祉保健部長が「今後も安全安心なお産をしていただくため、有田市立病院の常勤医師確保に協力し、医療体制の確保に取り組んでいきたい」と答弁されている。



知事の答弁も「一人の医師を確保することは大変困難なことであるが、これを行っていかないと次々と崩壊が起こるので、引き続きがんばっていきたい。有田保健医療圏全体で安心できる地域医療の確保に取り組む」と決意されている。

働きかけはされているのか。

町長 一刻の猶予もない事態である。有田川町のみならず一市三町の協議会有一些るごとに県に陳情している。引き続き常勤産科医師確保のために強力に働きかける。

（その他にも災害対策について質問しました）



僕は、町議会を見るのは初めてでした。まず最初に感じたことは議員のみなさん全員が真剣に考えてくれていることでした。あんなにも、必死になっ
ていて、すごく僕達のことを考えてくれているのだなあ、と思いました

初めての傍聴

岩本 大喜さん

石垣中学校3年生と先生が社会科で習う公民の授業の一環として、議会について学ぶために傍聴されました。
傍聴された生徒さんから感想文をいただきましたので、掲載させていただきます。
なお感想文は原文通り掲載しています。

た。
それに今まで何事もなく有田川町で生活してきた僕は、有田川町はほとんど問題がないものだと思っていました。でも、町議会を見て、こんなに平和で何も問題のない有田川町に見えても、まだまだ多くの問題があることを知り、良い経験となりました。
今日の町議会では、僕たち中学生のこともあり、すごく身近なことだったので興味が持てて良かったです。
また、機会があれば傍聴したいと思いました。

私は、今日初めて議会見学へ行きました。そこでは、たくさん議員の方々が、有田川町に住む私達の安全や暮らしを守るために、真剣に話し合いを進めていて、とても感動しました。私達にとっては、少し難しい言葉が飛び交っていました。しかし、有田川町をより良くするために、熱心に話し合いをされているということがとても伝わってきました。すごいなあと思いました。
また、私達にもよく関係する教育のことや、学

感動した議会見学

大野 美花さん



町議会見学で 学んだ事

加納 千尋^{さん}

私は、あまり町議会について興味を持っていませんでした。しかし、実際に見学で行ってみると

力テストについても話し合われていることが分かりました。そして、最も印象に残っている質問は、災害についての質問でした。河川の改修や避難指示のことなど、議員の方々が一生懸命説明してくださっていることに感動しました。

私もこれからは有田川町について考えていきます。

多くのことを学ぶことができました。

町議会は、私達が住んでいる地域の近くで行われていたことや、内容では災害対策や教育についての話がされていました。私は、自分達があまり知っていなかった所で地域をこんなにも大切にくれていたのだと気付きました。興味をもっていなかったことが、こんなに地域や自分達を支えてくれていたことに感動しました。

私は、この見学で自分がもつともっと知らなければならぬことが多くあることを学び、感じました。これからは、もっと物事に関心を持つように心がけたいと思います、頑張りたいと感じました。



議会傍聴に行って

木地 祐樹^{さん}



議会を初めて傍聴に行ってみて、議会は予想していたものより空気が他とは違い、議員さんも真剣に一つ一つの問題に取り組んでいて驚きました。また、最近テレビやネットなどでよく見聞きす

るふるさと納税などとても自分達に身近な事まで質問事項に出ていて、それをまた細かく議論していて、こんなに細かいところまでしてもらって自分達の将来の事までも出ていて感動しました。そして議会を傍聴している人の中に知っている人が三人程いて議会は自分達にはあまり関係は無いだろうと思っていたけど、議会はとても自分達に関係があり身近なことなんだと思いました。

最後に、今までは政治や行政には興味を持っていなかったけど今回の傍聴でとても興味を持てました。



産業建設住民常任委員会視察 住みたい田舎全国一位

委員長 殿井 堯

9月30日、10月1日、大分県宇佐市、豊後高田市の両市で取り組んでいる定住対策・観光振興策について視察してきました。どちらも雑誌「いなか暮らし」で取り上げられ、住みたい田舎日本一にも選ばれています。

グリーンツーリズム で年間1億円の経済 効果

宇佐市

宇佐市は、人口5万7千人、面積439km²。平成17年3月31日、1市2町が合併。

宇佐市は、日本でいち早くグリーンツーリズム（農家に宿泊し、農業体験を行う）の事業に取り組む、リピーターが多い



宇佐市安心院町で説明を受ける

のが特徴です。地元には都会の情報が入り、都会から来た人には田舎の情報が入ります。

現在89軒の農家が受け入れてくれて、平成25年度で1億円を超える経済効果があります。

その他にも各種移住支

援策や空き家バンク制度、小規模集落への支援策なども行っています。

人口3万人目指し移 住支援策を充実

豊後高田市

豊後高田市は、人口2万3千人、面積207km²。平成17年3月31日に1市2町が合併。

定住促進に最も力を入れていきます。人口減の内訳を調べると転出者が多く、転入者を増やす対策を講じます。ふるさと回帰フェアで全国の方に移住をよびかけ、平成23年には転入者が転出者を上回るようになります。

事業の中心は、空き家バンク制度です。平成18年から140件の受け入れがあり、関西・関東から4割、周辺で6割、また、20歳から40歳代が5割を占めています。

また、空いている県の

職員住宅をリフォームして、新婚さんが1カ月4万円で住めるようにしています。

子どもに対して無料塾で学力向上に努め、子育て世代には引っ越しの費用を助成や光通信の整備など、定住ガイドブックを作成するほどのいろんな制度があるのに驚きます。

また、市のホームページ内の移住支援サイトでさまざまな制度の紹介や雇用につながる情報を提供しています。

観光面では、さびれた商店街をそのまま活かし、昭和30年代の「昭和の町」事業に取り組み、年間30万人が訪れるようになっていきます。

さらに、ユネスコ未来遺産になった「田染荘（たしぶのしょう）」という棚田もあります。



昭和の町づくり（豊後高田市）

以上、両市の視察を通じて、若い方が住みやすい環境づくりに努力していること。またマスコミを使った情報発信をうまく取り入れているのが特徴だと感じました。

当町の定住策を進めるうえでも十分示唆に富んだ内容だったと思います。



カレー甲子園で見事に4位入賞した「有田中央高校清水分校」のみなさん

こんにちは。
清水分校の仲良し
三人娘です(笑)
地元のぶどう・山椒・地鶏・生
しらすで、「鶏団子のピリピ
リ山椒スープカレー」を作り、カレ
ー甲子園では決勝まで行きました。
応援ありがとうございました。
ふるさとまつり（11月16日、
八幡中学校グラウンド）でも
作るのに食べにきてく
ださい。

平成26年第4回定例
議会は12月3日開会の
予定で、一般質問は12
月11日・12日に予定さ
れています。
議会では、みなさん
の生活に直結する問題
の議論しています。
ぜひ傍聴にお越し
ください。

傍聴に
お越し
ください



求む!

広報委員会では、議
会広報誌「かわら版」
の表紙を飾る写真・イ
ラストなど、町民のみ
なさんから募らせてい
ただいております。
有田川町の名所や風
景など、お気軽にご応募
ください。
みなさんからのご意
見・ご感想もお待ちして
います。

議会広報編集 特別委員会

◎ 増谷 憲
○ 小林 英世
◎ 谷畑 進
○ 辻岡 明
◎ 林 宣男
○ 岡 省吾
◎は委員長
○は副委員長

編集 後記

近年、世間に行きかう
報道に心痛めるものがあ
ります。

台風11号・12号による
災害に遭われた方々に、
お見舞い申し上げます。
私たちが毎日見る山々
は、四季ごとに姿を変え
ながら、それでいて長年
同じに見えます。

極寒・猛暑・大雨など
の異常気象を受けながら
見えないところで変わ
りがあるかもしれないけ
れど、いつもきれいに輝
いています。

ひとまず世間から離れ
て、この素晴らしい自然
の中にしつかりと立ち、
平和と健康をかみしめる
時間をとってはいかがで
しょうか。

(谷畑 進)



お問い合わせ ☎ 52-2111
吉備庁舎4階議会事務局まで